【学校通信】

令和２年３月 10 日

第 26 号

# 西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西　規之

## ご卒業おめでとうございｍＩＩ

卒業式の内容を大きく減らしたため、式中で卒業生の代表から贈られる「答辞」も聞くことができませんでした。卒業生の皆さんは、２月２８日（金）の５、６校時に体育館で聞いたと思いますが、あらためて、ここに記したいと思います。答辞とともに３年間を振り返ってみてください。

### 答辞

西中学校で過ごした３年間。私達はたくさんの幸福を知りました。長いと思っていた中学校生活も、振り返れば瞬く間に過ぎ去り、沢山の思い出が私達の心に残っています。

３年前、西中学校の入学式を迎えた日。天気は雨。曇り空の下、雨のしずくが正門横の桜の花びらを揺らしていた。中学校の制服に袖を通し、少し大人になった気分だった。

入学してからは新しいことだらけの毎日

林間学校当日では、準備からドキドキワクワクしていた。「絶対成功！」を合い言葉に出発した当日。でも、この日はあいにくの雨。それでもめげないで、体育館でした大縄大会。道に迷っても、皆で協力してゴールしたオリエンテーリング。１つ乗り越える度に、クラスの仲が深まっていった。「学校生活は楽しいことばかりではない。本当の仲間は苦しいことも一緒に乗り越えるもの」。大切なことを知った林間学校が、私達のスタートでした。

２年生になっての「トライやる・ウィーク」

初日は、右も左も分からず、たくさん迷惑をかけてしまいました。それでも優しく関わってくださった事業所の方々。そこで感じたのは自らの未熟さでした。働いてくれる家族のありがたみ。地域で働く方々の存在。自分達は本当にたくさんの人に支えられているのだと気づいた瞬間でした。

秋が訪れ、校外学習は、神戸を巡りました。

班のメンバーだけで神戸まで行けた。自分達で計画した通りに移動ができた。全員無事に帰って来られた。たくさんの「出来た！」が自信になりました。そして何より、先生達の嬉しそうな顔を見て、心から成功して良かったと思いました。

３年生

最高学年になり、スピーチ大会や合唱を通して、お手本になることを意識した年。後輩の良いお手本になることを折に触れ耳にするようになった。そして、何もかも「最後」になる１年。

迎えた最後の宿泊行事、修学旅行

「学知利行」何回も会議を重ねて準備してきた３年間の集大成。校外学習での経験を活かし、無事、新神戸に集合完了。そんな私達にとって当たり前のようなことも、添乗員さんはじめ沢山の人に褒めていただき、自分達の成長を感じました。沢山のことに挑戦し、成功を重ね、褒められる姿を想像していたけれど、修学旅行の楽しさに歯止めが効かず、涙ながらにクラスで話し合った夜。クラスの皆が真剣に話を聞いてくれたから思いを伝えることができた。長崎を訪れた目的。平和セレモニー。平和学習では、世界が歩んだ戦争の道を知る中で、日本で起こった目をおおいたくなる光景や耳を塞ぎたくなる現実が突きつけられました。「けれど、それがかつての日本で起きた現実」。心を背けてはいけない。今を生きる、私達が知らなければいけない。「助かっても尚、死ぬ勇気、生きる勇気を選択しなければならないほど希望の持てない生活があったこと」。知ったから、考えることができた。知る事こそが、自分達の背負うべき責任なのだと気づくことができた。そして、次は私達が伝えていかなければならない。大地に生まれ、育てられ、生かされているものとして、人間が歩んだあやまった道程を２度と繰り返さない。静かな大地を継承することを誓った。

最後の体育大会

下級生の時に見た迫力を出したくて、西川先生と男子全員で作り上げた組体操。ランニング、準備体操、トレーニング、３年間繰り返してきたいつもの体育の風景を再現した演技。大人塔がなくても、３年間積み重ねてきた一糸乱れぬ動きと声で、後輩に

西中学校の伝統を繋いでいける。そう信じて、全ての演技に心を込めた。最後のピラミッドができあがったとき、感謝の気持ちでいっぱいだった。僕たちのために、３年間の体育の授業でしてきた全ての努力が活かせる演技を考えてくださった西川先生、支えてくれた学年の先生、ありがとうございました。

何度も放課後に集まり練習した。ダンスリーダーとして、どうすれば皆にわかりやすく伝わるのか試行錯誤を重ねた。完成するか、振り付けを覚えられるか心配だった。難しい振り付けも互いに教え合い、笑顔で、楽しく踊りきることができた女子のダンス。「Fine＆Smile」。間奏で叫んだメッセージは見てくれている人を笑顔にしたいという思いをたくさん詰め込んだ。

「私たちの歌には、人を感動させる力がある」

自分達の声の響きに驚いた。集会で何度も合唱し、どんな歌でも唄えると思っていたのに、上手く仕上がらない合唱曲。何かが足りない。あの感動に届かない。何度も練習を重ねるうち、周りの声を聴き、皆で同じ方向を向くことの大切さに気づいた。指揮、伴奏、先生、そして皆。それぞれの気持ちが１つになる瞬間。その瞬間の尊さに「このクラスで良かった」「西中生でよかった」と深く実感した。

３年間頑張った部活動

１８人で戦える最後の大会。負けたら終わりの決勝トーナメント。外したら終わりのＰＫ戦。「思いっきり蹴ってこい」と言われたその言葉でチームの心が１つになった。今まで食い違いや喧嘩もあったけれど、全員の目が真剣になった。あの時の緊張感と感動は今でも忘れない。

１、２年生の皆さん

私達は皆に尊敬される先輩でしたか。行事や部活動を通して、後輩の見本になれるよう、一生懸命してきたつもりです。私達は今、皆さんにバトンを渡します。西中生としての誇りを持ち、受け継がれてきた伝統を更に素晴らしいものにしてください。

いつも一緒にいた友達

毎朝顔を合わせると「おはよう」と言ってくれるだけで嬉しかった。もう、いつもの「おはよう」が聞けなくなるのですね。皆との３年間がなければ今こうして、幸せな気持ちで、この場にいる事もできなかったでしょう。友達でいてくれてありがとう。毎日の授業、昼休みのボール遊び、放課後の部活動、帰り道。毎日のありふれた日常。当たり前だけれど、かけがえのない大切な時間を一緒にいてくれてありがとう。

お世話になった先生方、職員の皆さま

３年間ご指導くださり本当にありがとうございました。地域の方々、３年間見守ってくださり、ありがとうございました。先生方は私たちに多くの時間をかけてくださいました。そして、私たちを信じて沢山のことに挑戦する機会を与えてくださいました。長いようで短かった３年間。学年の先生方はいつも私達の側にいてくださいました。思春期のまっただ中にある私たちに常に寄り添い、時に厳しく、正しい道に進めるよう、導いてくださいました。先生方を心配させることばかりでしたが、先生方のおかげで、この西中学校での３年間が宝物のような月日になりました。

学年主任の山口先生

いつも私達を見守ってくださいました。どんなに小さな変化も見逃さず、気づいてくださいました。学年集会では、私たちの成長を沢山、褒めてくださいました。「先生に認められる生徒になりたい」と、今日まで頑張ってきました。先生のおかげで、今日の私達があります。３年間本当にありがとうございました。

いつも私達を支えてくれた家族

試合の日に朝早くからお弁当を作ってくれてありがとう。本番の日、緊張する私に「お前なら大丈夫」と言って送り出してくれてありがとう。辛いことがあった時に、話を聞いてくれてありがとう。どんな時も一番近くでエールを送ってくれたのは家族でした。気持ちが抑えられず、強く当たってしまい、えらそうに言ってしまったこともあったけれど、ここまで成長できたのは、家族のおかげです。これからも沢山迷惑をかけるかもしれませんが、私達をずっと見守っていてください。

私達は今日、西中学校を翔び立ちます。未来に何が待ち受けているのか分かりませんが、西中学校で学んだことを糧に挑戦していきます。

夢みたものは　ひとつの幸福
ねがったものは　ひとつの愛
これらはすべてここに　ある

令和二年三月十日